

《秋は思索の季節です。記憶を辿り自分自身を見つめましょう》

おはようございます。

お元気ですか?・・・一番素晴らしい薬は笑顔だと私は何回も言ってきました。気分が悪い時でもある人の笑顔を見たら私も知らないうちに笑顔になっているのが人間です。笑顔しましょう。

今日の福音(マタイ 21・28-32)は簡単な物語です。二人の息子がいてお父さんが「ぶどう園は仕事がたくさんあるから手伝って欲しい。」と頼んだのです。お兄さんは「いやです。」と言いましたが考え直して働きに行きました。弟は「はい」と答えましたが行きませんでした。これが今日の福音の内容です。どちらの息子がお父さんの心に合っていますか?お兄さんの方ですよ。でも私は個人的にこの二人の息子のどちらの態度も気に入りません。「嫌です」と言ったが、考えを直し、結局父の胸に従った兄の方も、初めから「はい」と答えたらお互いに気持ちよかったんじゃないでしょうか。やってくれるのなら「はい」と言ってやってくれたほうがお互い気持ちいいです。

この物語をもっと深く理解するために内容を少し変えてみます。二人の息子でなく四人の息子がいました。

一番目の息子は「はい」と答えて働きに行きました。

二番目は「はい」と答えたが行きませんでした。

三番目は「いいえ」と答えたが働きに行きました。

四番目は「いいえ」と答えて行きませんでした。

先に申し上げたように、「はい」と言って働いた息子が一番格好いいです。これが私達が求めなければならない姿です。イエス様に何か言われた時に、自分の好みじゃなくても、何か疑えるところがあっても、そこには何かみ旨があるんだろうと思いながら、従順にしますという態度が何よりも信仰者である私たちに必要ではないかと思えます。

「はい」とこたえて行かなかった二番目の息子と「いいえ」と答えてその答え通りに行かなかった四番目の息子のうち、どちらがもっと悪いと思えますか。両方とも悪いです。このような生き方はできるだけ避けていただきたいです。

そして、「いいえ」と言っても働きに行った三番目の息子はまだいいですよ。私たちには限りがあります。「はい」と答えても行けない場合もあります。少なくとも「はい」と答えたらその約束を守ろうとする努力が何より必要ではないでしょうか。とにかく、私達は「はい」と答えてその約束を守る神様の息子、娘になるために心を尽くそうと頑張らなくてはいけないと思えます。

ところでなぜイエス様はこの二人の兄弟だけの話をしたのでしょうか?なぜ「はい」と言ってぶどう園に働きに行った息子のことと「いいえ」と答えて行かなかった息子のことは話にださなかったのでしょうか?これにはわけがあります。それは、私達人間はいくらがんばっても、罪の内に生きるからです。ですから、今日の例え話の二人の息子の姿がほとんどの私たちの姿になるということです。結局、罪の内にある私たちがもっと相応しい生き方をするためには毎日改めて回心の心をもって、神様のお招きに答えなくてはならないということを仰っているのです。失敗しても、結局「イエス様私は間違いました。あなたに従って行きます。」と言うのが私達なのです。ですからイエス様は「はい」と言って働きに行った息子のことは話されなかったのです。今日も御聖体を頂くとき「私達はいろいろ間違いがありました。でもあなたが許して下さるのを堅く信じます。」という心で頂きましょう。

次は福音とは違う内容の話をしたいと思えます。

秋ですね。朝晩は寒さを感じます。秋は思索の季節と言います。思索とはどういう意味ですか?思

い探索するのですね。考えるだけでなく答えを求めて探すことです。お米、木の葉にも淋しさを感じさせる変化が表われます。その時「冬が来るんだなあ」というだけの気持ちで過ごすのではなく、もっと考え込んで一枚の落ち葉を見ても何かの意味を探す心が必要だと思います。

皆様 "総告解" "総告白"という言葉を知っていますか？今日皆様に私が招きたいことはこれです。人間は生まれてから今までいろいろな傷を受けて自分の性格を作ってきています。私の性格はなぜこんな風になってしまったのかと気になるとき、それは必ず傷があるからだと思って下さい。三歳の時から四歳の時からわかりません、個人個人違いますから。記憶が始まったところからでいいのです、自分の記憶に残っている時から今までを辿ってみてきて下さい。特に傷になったことをよく考えてみて下さい。何に傷ついたのかよく考えてみます。今まで自分が自分を赦せなかったところはどこか。他人を赦せなかったところはどこか。だれかに傷つけられたことを全部思い出して下さい。思い出すだけでなく整理してみましょ。テーブルに紙を一枚か二枚置いて子供のときからのことをゆっくり考えて書き出していく。例えば、小さい時お母さんが私を置いたまま二日も三日も帰ってこなかった。その時の淋しかったこと怖かったこと不安だったこと等、頭に残っている記憶を書いてみて下さい。書いてみると皆様の全てのことが整理できます。その中で反省を乗り越えて悔い改めることができるかもしれません。そしたらその紙を持って赦しの部屋にいらっしゃったらいいんじゃないでしょうか。私は毎年秋になるとこの作業をしています。この一年を振り返り何が問題だったのかと。

このように自分の全生涯について考えて罪、傷を探すことを "総告解" "総告白"といます。それを持って告解部屋に入ったら素晴らしい秘跡になるわけです。

考えるためには何よりも良い季節を迎えています。自分について考えてみましょう。

ありがとうございました。